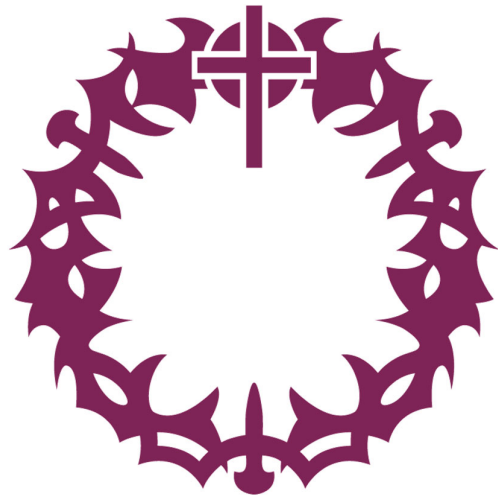


# 2026 年度 事業計画書

---



	ページ
I 理事長メッセージ .....	1
II 桜美林学園の目指す姿 .....	2
III 2026 年度の計画 .....	4
1. 教育組織の 2026 年度計画	
2. アクションプラン	
3. 2026 年度の組織体制	
IV 財政計画 .....	14

# I 理事長メッセージ

桜美林学園は、1921年、創立者・清水安三が中国で設立した小さな学園からはじまり、現在では幼稚園・中学校・高等学校・大学・大学院に約12,000人の学生・生徒・園児が学ぶ総合学園へと発展を遂げました。建学の精神「キリスト教精神に基づく国際人の育成」やスクールモットー「学而事人（学んで人に仕える）」のもと、「キリスト教精神を礎とする学園として、教育・研究において誠実に真理を求め、愛を持って隣人に仕えることのできる人材を、教育を通じて世に送り出すこと」を使命としながら、教育・研究活動に取り組んでまいりました。



私たちを取り巻く教育環境は、少子化の進行や国際情勢の変化、テクノロジーの急速な発展などにより大きな転換点を迎えています。2025年の出生数はおよそ66.5万人と、過去最少水準となりました。こうした学齢人口の構造的な変化は教育のあり方そのものに影響を及ぼしています。また、国際情勢の緊張の高まりは学生の国際交流にも影響を与える一方、生成AIに代表される技術革新は、教育・研究の手法や学生・生徒・園児の学び方の可能性を大きく広げつつあります。

本学園は、不変の理念を守りながらも、時代の変化に対応するために、2025年度から始まる「第4次中期計画」を策定しました。この計画では、『成長力の桜美林』ブランドの構築、『グローバル・ダイバーシティ』環境による唯一無二の教育環境の実現、『次の100年を切り拓く強固な経営基盤の構築』の3つの重点計画を掲げ、設置校・法人組織の教職員が一丸となって高い目標を実現し、学園経営基盤の強化へとつなげていきます。

近年の物価高騰は、学生の生活環境のみならず、教育・研究活動を支えるさまざまな条件にも影響を及ぼしています。本学園では、こうした状況の下においても、学生・生徒・園児一人ひとりが安心して学びに向き合い、その可能性を伸ばしていくことができるよう、寄付金等を活用した教育環境の充実に取り組んでいます。その一環として、2026年度より「NEXT 桜美林」募金事業を開始いたします。本事業につきまして皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

桜美林学園には、誰もがのびのびと主体的に学べる環境、学生同士が協力して学びあう姿勢が息づいていて感じています。予測困難な時代の中、いつの時代でも変わらない建学の精神に基づきながら、時代の変化と社会のニーズに対応し、教育と社会全体のより良い未来に向けて、学園全体で取り組んでまいります。本学園との関わりを持ち、本事業計画にご関心を抱かれた皆様におかれましても、見守りとお力添えをいただくと幸いです。

桜美林学園 理事長  
大槻 達也

## Ⅱ 桜美林学園の目指す姿

桜美林学園は、2026年に創立80周年を迎えることになりました（2021年には前身となる崇貞学園創立から100周年を迎えています）。

これからも、世界に新たな価値を創造していくために、学園が世の中に果たすべき使命（建学の精神）、世の中の変化を踏まえて実現したいビジョン（2040年長期ビジョン）、学生や社会に提供したい価値（学園スクールモットー）により、明日を切り拓いていきます。

### 1. 建学の精神

#### 「キリスト教精神に基づく国際人の育成」

桜美林学園は「キリスト教精神に基づいた、教養豊かな識見の高い国際人を育てたい」という清水安三の願いに始まり、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目指して教育活動を展開しています。すなわち、将来どのような環境にあっても、常に未来に希望を持ち、他者の痛みを理解し隣人に寄り添える心を持って、現代社会の多様な価値観を受け止めることのできる柔軟性を持ち、かつ創造力と判断力、行動力を養い、これらを豊かに発揮できる人材を世に送り出すことを使命としています。

### 2. 長期ビジョン

J.F.Oberlin Schools 2040

#### Unique & Sharp

唯一無二の個性的な教育で変革社会をリードする人材を育成

1. イノベーションと共に進化して、世界中がキャンパスの環境を目指す。
2. 新たなことに積極的にチャレンジする。
3. 適応、変化、進化。教職員一丸となって学園を改革していく。

### 3. スクールモットー

#### 「学而事人」

「学んだことを人々や社会のために役立てる」という意味です。この教えは、清水安三の留学先である米国オハイオ州 Oberlin College の校名の由来であるジャン＝フレデリック・オベリンが提唱した“*Learning and Labor*”の思想と重なるものです。

桜美林学園の学生・生徒・園児は、学園での学びや取り組みを通じて成長していき、「学而事人」を実行できる素質を養っていきます。

### 4. 第4次中期計画（2025年度～2028年度）

「第4次中期計画」では、「『成長力の桜美林』ブランドの構築」、「『グローバル・ダイバーシティ』環境による唯一無二の教育環境の実現」、「次の100年を切り拓く強固な経営基盤の構築」の3つの重点計画を掲げ、設置校・法人組織の教職員が一丸となって高い目標を実現し、学園経営基盤の強化へとつなげていきます。

## 学園のビジョンと第4次中期計画（2025年4月～2029年3月）

<b>建学の精神</b>	キリスト教精神に基づく国際人の育成			
<b>長期ビジョン</b> (2040年まで)	<b>Unique &amp; Sharp</b> 唯一無二の個性的な教育で変革社会をリードする人材を育成			
	主体的で躍動感ある教育研究	多様な価値観を尊重するコミュニティ	迅速で柔軟な組織運営	
<b>第4次中期計画</b>	<b>中心概念</b>	「園児・生徒・学生への教育による付加価値の最大化」 「ブランド形成による募集力の安定化」		
	<b>重点計画</b>	1. 「成長力の桜美林」ブランドの構築	2. 「グローバル・ダイバーシティ」環境による唯一無二の教育環境の実現	3. 次の100年を切り拓く強固な経営基盤の構築
	<b>達成目標</b>	「桜美林」という名称の「ブランド化」により、今後の厳しい学生・生徒・園児募集環境に対応。すべての設置校において ①在学期間中の教育の質と成長の保証 ②卒業後も自ら成長していける力を獲得できる教育の実現 の2点を目標に掲げ、「成長力の桜美林」ブランドを構築。	為替変動、地政学リスクといった海外情勢を踏まえ、日本から海外への留学だけでなく、設置校内での「グローバルな教育環境」を改めて強化・整備し、国籍はもとより多様な価値観が入り交じる「教育交差点」を桜美林の各キャンパス内に構築。	持続可能な経営基盤を構築するため、現在の施設整備資金にかかる外部負債を償還しつつ、財務構造上の改革を実施。その実行・達成を担う「職員力」の強化を推進し、少子化時代を生き抜く私学経営モデルを構築。
	<b>KGI（重要目標達成指標）</b>	収容定員充足率、志願者数 学生アセスメントテスト変化率	留学生総数（大学）、外国籍学生数	負債比率、経常収支差額
	<b>法人・大学</b>	1-1 第4期認証評価基準を上回る水準での内部質保証体制を構築し、教育の質を高める好循環と積極的な情報発信を実施。 1-2 初年次学修を強化し、学士課程教育のスタートダッシュを支援。4年間を駆け抜ける「学ぶ力」を養成。 1-3 桜美林学生の強みである「対人力」の成長を可視化し、さらに高める施策を実行。 1-4 教育と学生生活の両面において満足度最大限に高め「桜美林で良かった」と感じてもらえる大学づくりを推進。 1-5 在学中の学びと成長を支える教員の情報や、学園生活を謳歌する学生、社会で活躍する卒業生の姿をWeb・SNS等を通じて発信。 1-6 研究力向上を図り、外部需要に応え社会貢献を実現するとともに、本学への教育内容の充実へと還元。	2-1 留学生にとって魅力的な異文化体験プログラムの強化と拡充により短期受入数を増加。 2-2 早期卒業等によるギャップイヤーを活用し、優秀な学生の海外体験を支援。「グローバル・オペリンナー」を国際社会へ輩出。 2-3 国際学生受入プログラム（仮称）を本計画期間内に立ち上げるための検討を推進。在学生に占める正規留学生数を15%（2024年度6.1%）まで引き上げ。 2-4 英語のみで学位取得が可能なプログラムの設置について検討。 2-5 多国籍のみならず、ジェンダーや障害、信条などあらゆる価値観の多様性を包摂する教育・学生支援を推進し、教養豊かな識見の高い国際人を育成。	3-1 物価高騰の厳しい経済環境の中で必要な財務計画を早期に策定し、学生・生徒・園児が学ぶ環境の安全・安心を確保。中高については新校舎の建築を検討。 3-2 各事業の収支を精査し、戦略的な資源配分を行うとともに、縮小・停止や集約といった判断を行い人材を含むあらゆる経営資本を最大限に活用。 3-3 外部資金の獲得機会に目を向け、オール桜美林体制で収入基盤を強化。 3-4 職員人事制度の抜本的な改定に則って組織や個人の「挑戦」と「成長」を支援し、長期ビジョンの実現に資する人材を育成。
<b>中学校・高等学校</b>	1-7 「世界を舞台とした魅力ある教育」の創造に向けて、心の教育・批判的思考・協働力・創造力・シチズンシップの「5つの教育的視点」に立った教育改革を推進。 1-8 グローバル教育と探究学習の推進とともに、世界の最先端技術や研究に触れる機会と時代のニーズに応じた学びや成長の機会を提供。	2-6 未来のグローバル社会に必要な世界基準の教育の実現を目指し、多数の海外姉妹校との共同探究プログラムの構築、多様な人々との学びと新たな価値を創造する機会を提供。 2-7 キリスト教的価値を土台とした真の国際人としての高い品性と、他者の尊厳を守り、多様性を尊重する力を育成。		
<b>幼稚園</b>	1-9 園児一人ひとりの自己肯定感と、自分と同様に他者を尊重する心を育み、「共に育つ」力の伸長を促す教育を推進。 1-10 異年齢クラス運営の深化と、園児が互いに「育ち合う」環境を拡充。	2-8 他者を尊重する心から「多様性を知る」ことへつながり、幅広い視野と価値観を併せ持つ、豊かな心の土壌を養成。		

## Ⅲ 2026年度の計画

### 1. 教育組織の2026年度計画

#### 【大学・大学院】

##### リベラルアーツ学群

- 学修成果の可視化と点検サイクルの構築のため、学生の GPA 分布や PROG テスト等のデータを一覧化する基盤を整備し、教授会や FD でのエビデンスに基づいた教育改善（PDCA）を組織的に実施する。
- 学生へのフィードバック体制を確立することとして、可視化された指標をもとに、学生が自らの成長（学際性等）を確認し、アドバイザーとの面談等を通じて主体的な学びにつなげるためのフィードバック手法を策定・運用する。

##### 芸術文化学群

- 新制度の定着と領域横断教育の推進として、2025 年度導入の「7 つのマイナー制度」および新領域科目の運用を安定化させ、専修を越えた「芸術 + a」の協働的学修を具体化する。
- 社会接続型キャリア支援の実施に向け、自身の専門性を社会価値として提案するためのツール（提案型ポートフォリオ等）の作成支援を強化し、外部企業や専門家との連携を通じ、芸術実践を社会的なコンピテンシーとして言語化できる人材を育成する。

##### ビジネスマネジメント学群

- 学修支援の個別化と可視化を進めるにあたり、学修成果の可視化により、学生個々の現状に合わせた学修支援を実施する。TOEIC 団体受験の運営や受験料補助等のインセンティブを通じ、語学能力向上を支援する。
- 国際交流・キャリア支援の拡充として、BMGO（グローバルアウトリーチ）や AH（エアラインホスピタリティ）等の質の高い留学プログラムを提供する。また、新宿キャンパスの立地を活かした企業連携キャリア支援や、グローバルラウンジでの日本人学生と留学生の交流プログラムを強化する。

##### 健康福祉学群

- 初年次教育の質的改善とキャリア形成の基盤強化を推進するにあたって、基礎ゼミ運営委員会を中心に、教員向けガイドの見直しや成績評価方法の周知を徹底する。学生の出席率・課題提出率 90%以上を目標に掲げ、大学での学びに円滑に移行させることで、主体的な学修意欲と将来のキャリア形成に向けた土台を築く。
- 実践的な教育環境の整備と進路支援の実現のため、Moodle 等のオンラインリソースの活用を徹底するとともに、地域・企業と連携したフィールドワークや実習を初年次から展開する。メジャー・マイナープログラムを基盤とした専門的な学修と、実践・体験的な学びを往還する教育を通じて、対人支援職等の資格取得を支援し、専門性を活かした主体的なキャリア選択を促進する。

##### グローバル・コミュニケーション学群

- 新規プログラムの定着と高度な語学力育成の支援強化に向けて、2026 年度開始のトリリンガルトラック（韓国語 + 英語または中国語）を軌道に乗せるとともに、高度な複言語力の修得に向けた学修支援をさらに強化する。中国・同済大学とのダブルディグリープログラム（DDP）を正式に開始し、第 1 期生の派遣と運用を行う。

- 留学率の向上と支援強化として、GC 留学（中期留学）、短期留学、長期留学のプログラムを拡充し、留学参加率の 10 ポイント以上引きあげる。さらに高度な語学力を持つ学生を対象にした DDP 制度の運用を確立した上で、奨学金支援を活用して海外派遣を促進する。

### 航空学群

- 早期キャリア支援と実績維持のため、航空業界の採用活動早期化に対応し、2 年次からのキャリア・就職支援を強化。綿密なサポートにより、全コースで高い就職率を維持する。
- 学修指導の強化と国際研修の拡大を進めるにあたり、アドバイザーによる全 1 年生への面談、および成績不振者への重点的な学修指導を実施し、GPA の改善を図る。学生数増加に合わせ、海外研修の受け入れ校を拡大し、教育の質を維持する。

### 教育探究科学群

- 完成年度の総括として、1 期生の卒業研究を完遂させ、4 年間の教育成果を検証・可視化する。初の卒業生輩出に向け、キャリア支援スペシャルプログラムやアドバイジングルームの活用により、個々の進路に応じた指導を徹底する。
- 地域・社会連携の拡大と発信として、フィールドワーク等の連携先を前年度より増加させ、その活動状況を学内外へ定期的に発信（年 3 回以上）することで、教育活動の透明性と社会貢献度を高める。
- 留学生支援体制の充実とコミュニティ形成の実現のため、在籍している留学生のコミュニティ形成を通して、留学生が安心して大学生活を送れる環境を整備する。

### 大学院

- 教育プログラムの高度化と学群連携の強化を行うため、オンライン科目や履修証明プログラムの開発、心理学専攻の改組準備等を推進し、社会人等の多様なニーズに応える。また、学群との教員兼任体制を最適化することで、指導体制の充実と教育資源の効率化を両立させる。
- 持続的な大学院運営のため、展開するコースやプログラムに応じた柔軟な学費設定を行うとともに、学群と連携した教員体制を強化し、中長期的に学生が集まり、質の高い教育を提供できる基盤を実現する。

### 【中学校・高等学校】

- 時代の変化に対応しうる学校改革に着手し、新たなカリキュラム・国際教育を推進する。
- 国際人育成のため、姉妹校を中心とした国際教育プログラムを推進する。
- 2024 年度から採択された DX ハイスクールの教育プログラムを継続し、生徒に先端技術研究の情報に触れさせる講演会やイベントを実施するとともに、2040 年に活躍する人材を育成する。
- 2030 年竣工を目指す新校舎建設に向けて、新たな学びにふさわしい校舎の基本構想を策定する。

### 【幼稚園】

- 教職員のキリスト教理解を深め、キリスト教保育の充実と深化に取り組むと同時に、教員の実践的研修の強化をはかる。
- 異年齢クラス保育の園児が育ち合う環境を維持しつつ、学年別の活動も充実させる。
- 他の言語を通して多様性や他文化に親しむという観点から英語教育を継続し、また「とうきょう すくわくプログラム推進事業」を通して園児の興味・関心の幅を広げる。

## 2. アクションプラン

### 重点計画 1. 「成長力の桜美林」ブランドの構築

「桜美林」というネームの「ブランド化」により、今後の厳しい学生・生徒・園児募集環境に対応。すべての設置校において「①在学期間中の教育の質と成長の保証」「②卒業後も自ら成長していける力を獲得できる教育の実現」の2点を目標に掲げ、「成長力の桜美林」ブランドを構築する。

#### 1. 学修(学習)支援

大学
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 日本高等教育評価機構による第4期認証評価を受審し、評価結果を踏まえ更なる内部質保証の推進に係る改善を図る</li><li>○ 大学における教学改革を、データとエビデンスに基づき行うことができるよう学生アセスメントテスト（PROG）・学生満足度調査を実施、分析を行うとともに部門横断的なIR体制の構築に向けた取り組みを実施</li><li>○ 学びの形態や学修期間の多様化に対応するため、既存規程やガイド等を点検し、多様な学修を支える仕組みを構築</li><li>○ 対面授業を主体としつつも、各キャンパスを横断して履修できる体制を構築するためにオンライン・ハイブリッド形式も併せた教育の効果を高める形態を継続（第2外国語科目を含む）</li><li>○ 2027年度以降に想定される教育職員免許法及び施行規則の改正を見据えた教職課程のカリキュラム改訂を検討</li><li>○ 図書館利用者向けサービス向上のためのディスカバリーサービス導入・運営開始。図書館の利用支援・利用促進のための図書館関連イベント実施</li></ul>
中学校・高等学校
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 放課後学習支援の更なる充実、自習室の環境の整備</li></ul>
幼稚園
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 3ヶ月ごとの学年指導計画および週日案に基づく教育を確実に実施。日々・週ごとの振り返りを園内研修と連動させ、幼児一人ひとりの特性に応じた総合的な指導力を強化</li></ul>

#### 2. 学生生活支援

大学
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 初年次からの友人関係構築機会の提供を強化するため、課外活動の支援の充実等、学生の大学へのエンゲージメントを高める施策を企画</li><li>○ 多様な学生の支援を充実させるため、障害学生支援ガイドラインの改定、障害理解に関する全学FDを実施。ソーシャルスキルを育む外部講師によるグループ支援の実施や障害特性に応じた支援機器等の設置・活用促進</li><li>○ 困難を抱える学生が適切な専門的助言を受けられるよう、町田・新宿・東京ひなたやまキャンパスに精神科学校医を配置</li><li>○ 学内奨学金事業において、個人別の「目標展開シート」の導入や面談の実施による学修及び学生生活を奨励する育成型奨学金を継続すると共に、制度の見直しを関連部署と連携して実施</li><li>○ 学生満足度調査の運用を定着・強化のため、改善アクションの実施状況の公表、学生参加型の改善会議の検討</li><li>○ 特別強化クラブのコンプライアンス教育を強化するため、指導者及び所属学生の双方に対しコンプライアンス研修を実施し、健全な活動体制を維持</li></ul>

- 特別強化クラブを対象に、大学スポーツ協会（UNIVAS）の定める部活動の安全管理体制や重大事故の予防、事故発生時の対応体制等を整備するための安心安全認証制度（SSC）を申請、取得
- 学費支払 Web サイト（OBIPAY）について、学生、保護者へ周知徹底することにより利用率の向上を図り、学納金収納業務の完全ペーパーレス化を企図

### 3. 就職支援

#### 大学

- 採用市場の変化と各学群の特徴ある教育の進展に対応し、学群担当制に移行したキャリアアドバイザー制度の円滑な運用の実現。低学年からの面談利用による学生との信頼関係及び学群のキャリア支援担当教員との信頼関係の構築
- 企業へのアプローチ活動による関係作りを強化。また学生の志向形成と有名・優良企業への挑戦機会の創出
- 学生向け資格講座の円滑な運営
- 日本での就職を希望する留学生（大学院生含む）のキャリア支援プログラムの充実

### 4. 募集・広報

#### 大学

- 2025 年度に実施した外部専門家による広報課業務の検証・評価結果をふまえ、今後の広報戦略や広報体制を検討
- デジタルマーケティングを活用し、対象別に効果的な情報発信を推進。卒業生や保護者向けへの情報発信を強化。また、卒業生・在学生に対して大学の様々な情報を SNS で積極的に発信。さらに、ショートムービー等を活用し、高校生などの若い世代向けへの情報拡散を充実化
- 大学 Web サイトのリニューアル（2026 年度初め完成予定）対応を進め、教育研究情報の充実、志願者への魅力発信、アクセシビリティの改善等を企図
- 2025 年度より公開した大学 Web サイトの「教員紹介ページ」へ専任教員情報の追加を継続的に実施
- 志願者につながる 2027 年度、2028 年度高校卒業予定者の情報獲得を強化し、オープンキャンパスをはじめとする各種プログラムの来場者数の増加を図る
- 高校生のための探究・進路プログラム「ディスカバ！」の参加者数 3 万人超を目指す取り組みとして、高校向け「ディスカバ！ for School」の導入校の増加、春・夏の長期休暇中の個人参加、補助金獲得による付加価値の強化

#### 中学校・高等学校

- 学校説明会の内容や方法を見直し、生徒が運営する学校説明会の企画・実施、Instagramの毎日更新を継続的にを行い、フォロワー数 2500 人を旨とする等広報活動を更に活性化

#### 幼稚園

- 新規入園希望者を増やすため、Instagram等を利用した効果的な情報発信の在り方を広報課とともに推進

### 5. 社会連携・同窓・校友会

#### 大学・中学校・高等学校・幼稚園

- 各キャンパスの立地する自治体（町田市・相模原市・多摩市・新宿区）や諸団体（さがまちコンソーシアムや大学コンソーシアム八王子等）と連携し、学生の社会的実践力向上、地域との交流促進、大学の社会貢献度向上を企図

- 近隣の小中高校との連携事業として本学の教育・研究資源を活用した学びの機会を提供し、進路選択やキャリア形成への理解を深める機会を創出
- オビリンクリスマス等のキリスト教関連イベントにより、近隣地域や桜美林ガーデンヒルズへの社会貢献を行うとともに、本学のキリスト教教育への理解深耕を企図
- 新宿キャンパスにおいて、新宿区や新大久保商店街、地元企業、地元日本語学校等と連携した学生主体のイベント実施や支援を積極的に行い、学生の成長の機会とするとともに地域に定着
- 多摩キャンパスにおいて、大学祭（TAMA 祭）の来場者数の更なる増加を目指した取り組みを強化し、地域社会での航空学群の知名度向上を企図
- 東京ひなたやまキャンパスにおいて、桜美林芸術文化ホールを活用し、「教育の場」「地域の文化振興」という使命を果たすため、集客・話題性・地域との連携に優れた価値ある企画を立案
- 相模原キャンパスにおいて、近隣小学校と連携し、学生による「総合的な学習の時間」の支援等の協力関係を構築
- 校友会活動について、国内支部組織の再編検討や卒業年ごとの組織構築による若年層の取り込みを企図。また、在学生に対して食堂支援や物資支援等を検討・実施し、校友会の認知を拡大

## 6. 研究

### 大学

- 研究活動における弾力的、臨機応変なニーズを支えるための財源の枠組みの検討（科研費獲得のインセンティブ付与を主体とした間接経費執行方法の改善、研究環境整備充実特定資産の創設等）
- 受託研究契約書の標準化をはじめとする受託研究受入フォーマット整備を整備し、教員の専門領域に応じた外部助成情報の学内案内を開始
- 2026 年度から新たに取り組む学内公募型の短期プロジェクトを募集
- 研究ニーズの呼び込みのため、本学 Web サイトに研究シーズ集開設を検討

## 重点計画 2. 「グローバル・ダイバーシティ」環境による唯一無二の教育環境の実現

為替変動、地政学リスクといった海外情勢を踏まえ、日本から海外への留学だけでなく、設置校内での「グローバルな教育環境」を改めて強化・整備し、国籍はもとより多様な価値観が入り交じる「教育交差点」を桜美林の各キャンパス内に構築する。

### 1. 国際教育

#### 大学

- 国内での国際交流イベント開催数、留学プログラム説明会参加者数の増加
- 学群と学生のニーズに合致した留学プログラムの開発のために、地域研究（調査および海外協定校リサーチ）を継続。北欧、欧州において、EU 補助金を獲得できる提携校の開拓
- 国内大学と連携し、本学主催の海外プログラム（派遣・受入）を共同展開。参加学生数を増加させることで管理コスト割合の減少による参加コストの低減を企図
- 学生の国際的なキャリアにつながるようなプログラム（外務省在外派遣、日本語教員、インターンシップ等）を開発・周知
- 中国の協定校との老年学共同プロジェクトの実施（復旦大学とのシンポジウム・研修の受入等）

<b>中学校・高等学校</b>
○ 国際人育成のため、姉妹校交流を中心とした国際教育プログラム（相互の探究学習、グローバルリーダーシッププロジェクト）を推進
<b>幼稚園</b>
○ カリキュラムに基づき他言語に親しむという観点から英語教育を実施

## 2. 国際学生募集

<b>大学</b>
○ セメスタープログラム、サマーセッション、ウインターセッションの需要を深耕。海外募集周知活動強化、海外協定校や留学支援団体との連携を強化
○ 国際学生の募集強化のため、主要日本語学校との連携、海外提携校からの志願者増加
○ 「ムスリムフレンドリー認証」を導入している他大学の事例をリサーチし、認証取得の実務的なプロセス、費用、効果等を検証することで、本学での実現可能性と具体的な手順を確立
○ 「新たな国際学生受入れの枠組み」として留学生の在籍管理体制や宿舍問題などを整備

## 重点計画3. 次の100年を切り拓く強固な経営基盤の構築

持続可能な経営基盤を構築するため、現在の施設整備資金にかかる外部負債を償還しつつ、財務構造上の改革を実施。その実行・達成を担う「職員力」の強化を推進し、少子化時代を生き抜く私学経営モデルを構築する。

### 1. ガバナンス・コンプライアンス

<b>法人</b>
○ 理事会を始めとする経営管理体制が適正かつ継続的に機能するために、「内部統制システム整備の基本方針」に基づく諸規程と運用実態を点検し、課題を抽出し、経営管理体制、理事会運営規程や理事の職務権限規程など主要規程について改訂の必要性を検討・決定し、必要に応じて改訂案を策定
○ 内部統制システムの整備に伴い、規程体系の整合性を確認。学園運営が常に法令遵守を意識して運営されるよう最新の法令に適合しているか等を確認し、規程体系を整理
○ リスク管理委員会と連携し、学生や教職員の安全確保を最優先とした危機管理マニュアルを改訂。改訂した危機管理マニュアルを全学に周知し、計画に基づいた実践的な訓練を設計・実施
○ 公表しているガバナンス・コードの運用を全学的に定着させ、実効性の点検（自己評価）を実施

### 2. 財務

<b>法人</b>
○ 経常収支差額プラスを確保するため、予算編成から決算に至るまで各部署への丁寧な説明と緊密なコミュニケーションを継続
○ 安定的な財務基盤を確立するために、最新の情報を踏まえて長期財務推計をリバイス。現状だけでなく、今後10か年の借入金返済、内部留保、投資、資産売却、学費改定などの中長期的な経営計画の道筋を提示
○ 補助金の各配分基準の達成度を把握し、新たに満たすことが可能な基準に対しは、学内全体で目標を共有したうえ、担当部署に働きかけてさらなる改善を図る

- 中長期において第3号基本金引当特定資産を戦略的に運用し、安全性に配慮しつつ可能な限り最大の運用益を確保するとともに、当該特定資産の更なる拡充に努力
- 固定資産の取得予定年度を明らかにし、第2号基本金の組入れに係る計画表を作成することで、固定資産を取得するための所要見込総額と毎年の組入れ額（積立金額）を学内に対して明確化
- 学園創立80周年を機に展開する「NEXT 桜美林」募金事業」をスタートし、募金活動を推進
- 在学生の活動支援を目的とし、クラウドファンディング（Giving Campaign を含む）等の手法をコーディネートし、学生が在学中に募金活動を体験し、社会貢献や支援の意義に触れる機会を創出

### 3. 施設管理

#### 法人

- 町田キャンパス整備マスタープラン全体計画を継続検討し、個別の校舎建替の基本構想及び基本計画の取りまとめを行うほか、既存建物の集約・移転を検討し、移転方針を策定
- 遊休資産の有効活用、転用、処分を計画的に推進
- LED への変換等、設備更新による高効率化により、省エネ・環境負荷軽減を実現

### 4. 情報セキュリティ

#### 法人

- 情報セキュリティリスク軽減策として、多要素認証、システム脆弱性診断、情報セキュリティ対策基準の利用者向け手順の展開を実施
- 教職員向けの ICT 研修や、情報セキュリティのトレーニングと教育を強化
- 各部門のニーズに基づく業務システムの導入・支援（生成 AI 活用含む）
- 個人情報保護を前提とした「IR 規程」を策定し、データ利活用の制度的基盤を確立

### 5. 人事・研修

#### 大学

- 年間2回の全体FDの確実な実施。

#### 中学校・高等学校

- 学校全体の共通テーマによる教員研修のさらなる充実とともに、各教科別の研修参加を奨励

#### 幼稚園

- 教員の資質向上のために、園内研修における実践的研修の強化と研修時間の確保等の環境の整備を行い、幼児理解に基づき総合的に指導する力、具体的に保育を構想する力、教育的配慮を要する幼児に対応する力、他の教員と協同して取り組む力を向上

#### 法人

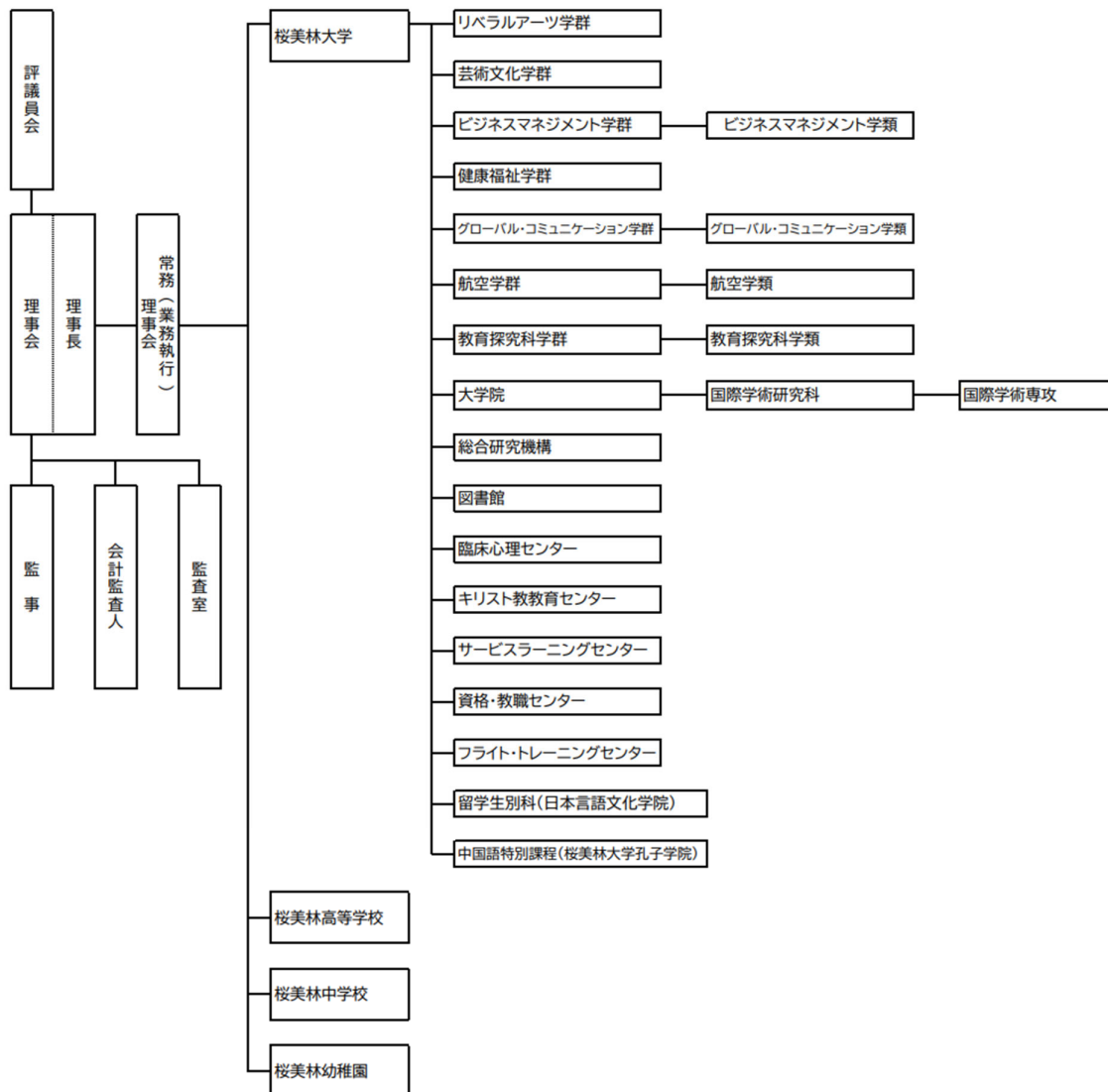
- 等級制度に基づく評価制度運用体制の確立に向け、評価者向けの研修会を実施、制度の趣旨や評価基準の理解促進を図るとともに、評価実施後のフィードバック制度の定着を企図
- 中高教員の業務整理と労働時間適正化のための職務記述書について引き続き内容を精査する
- 大学専任教員に対する勤怠管理制度の構築と試行運用に向けた取り組み及び、大学非常勤講師の勤怠管理制度の構築と試行運用に向けた取り組みの検討

- 育児・介護支援制度の改定後、その利用状況を可能な範囲で把握し、制度の運用に関する課題や改善点を整理
- 職場のダイバーシティを推進するため、若手職員のキャリア支援につながるセミナーやパネルディスカッション、LGBTQ、世代間ギャップ等の多様性に関する理解促進のためのセミナー等を実施。また、シャッフルランチを継続(各キャンパスでの開催等の発展形を含む)し、職員のネットワーク作りを支援
- 女性活躍推進法・次世代育成支援対策推進法の行動計画(2026年度～)の更新後の施策推進、法定雇用率引き上げ・除外率縮小に対応した採用・雇用確保の取り組み

### 3. 2026年度の組織体制

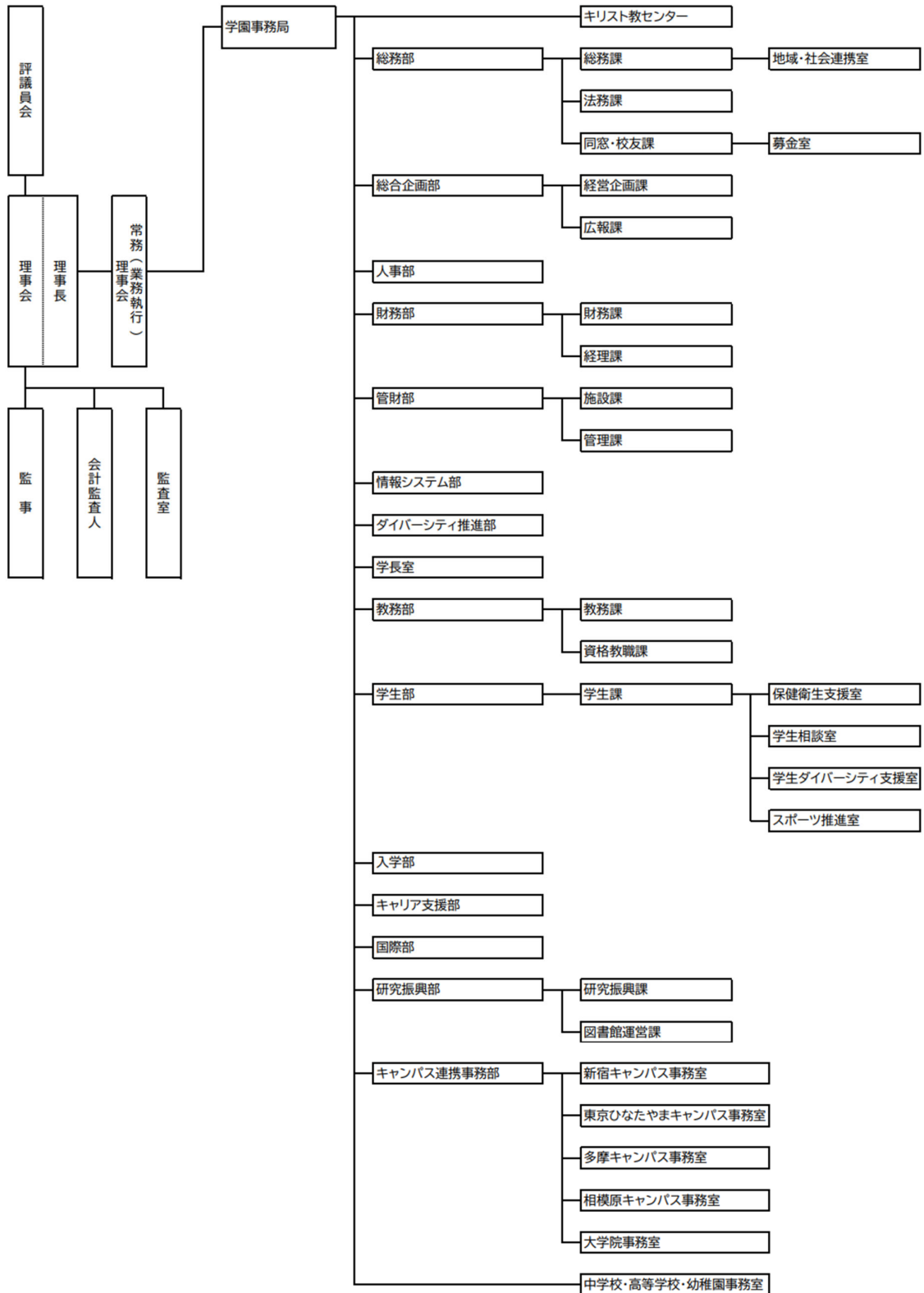
教育組織において、学則の改定に伴い臨床心理センターの位置づけ等を変更しました。

【教育研究組織図】



2026年度より事務組織について、ガバナンス向上や組織効率化等を目的に組織改編を実施しました。

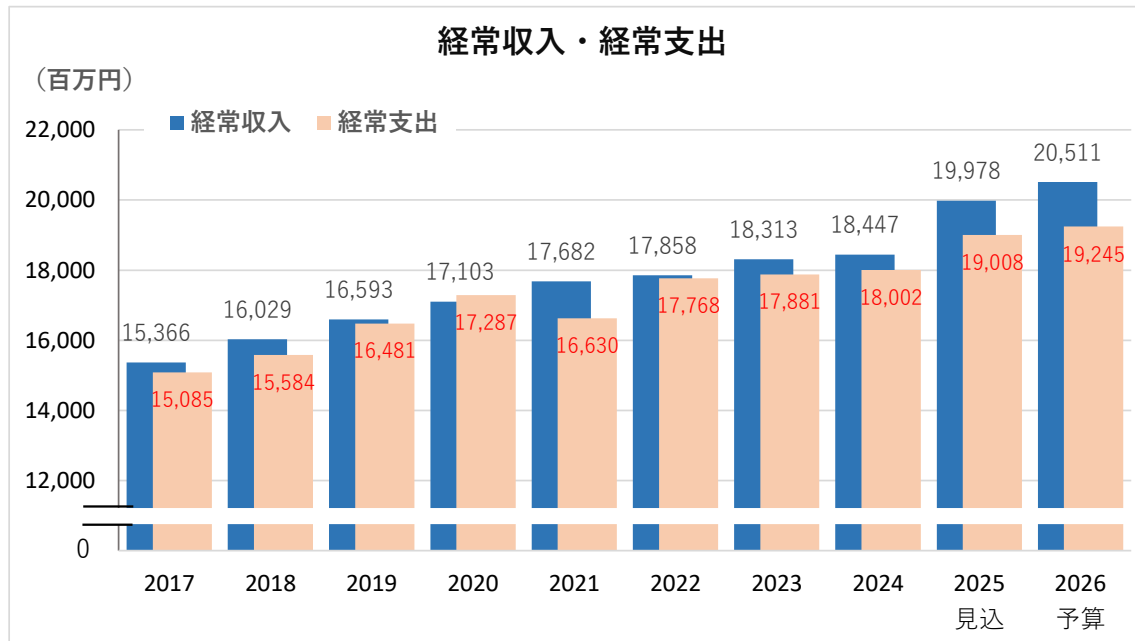
【事務組織図】



## IV 財政計画

### 2026（令和8）年度予算の概要

#### 1. 経常収入・経常支出の推移

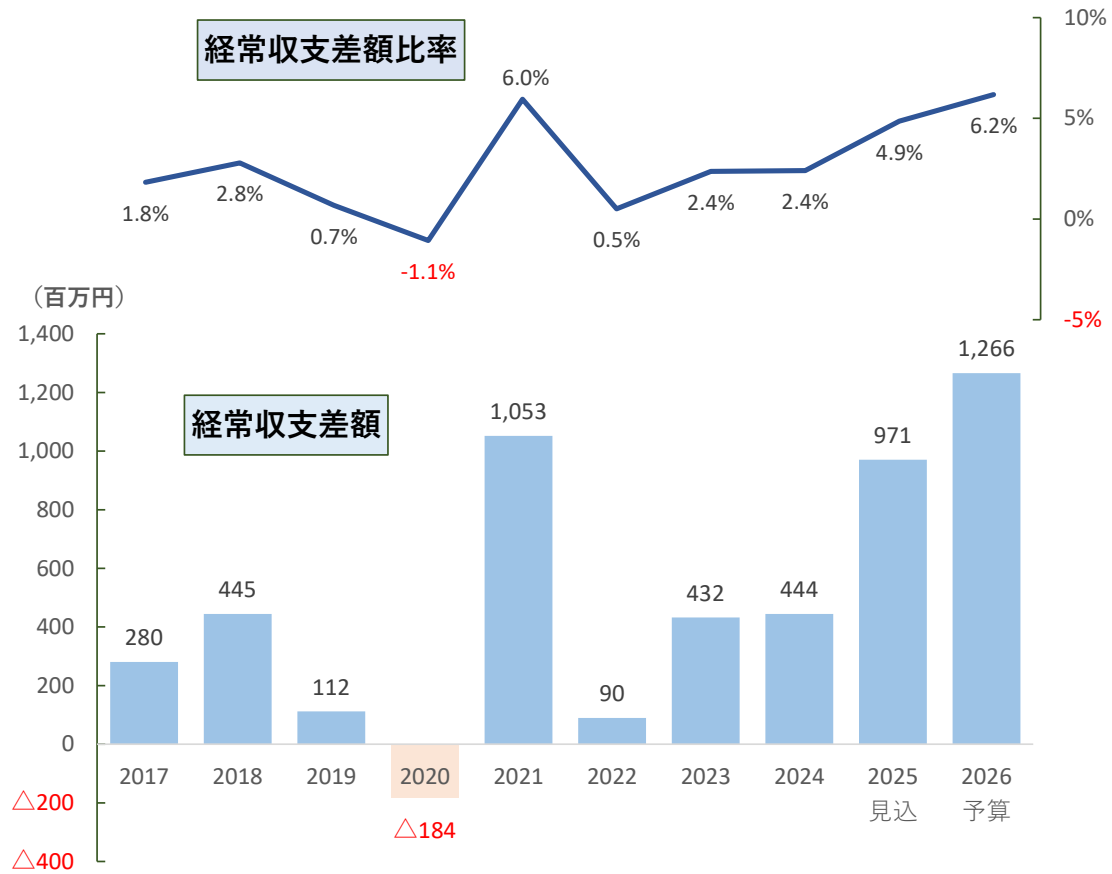


- 25年3月に「多子世帯」の大学授業料が無償化されたことを受けて、25年度から授業料等減免費交付金が大きく増加した。26年度予算もほぼ前年同額の14.1億円を見込んでいる。なお、交付金と同額を奨学費として学生に交付するため、経常収支差額への影響はない。
- 26年4月入学者から、教育や研究環境の維持・改善を大きな目的として大学院を除いた桜美林大学の学費および桜美林中高の学費を改定する。入学前教育の充実、奨学金制度の大規模な拡充、授業のDX化、国際人材の育成に向けた語学教育や留学支援などに注力していく。
- 教育研究資源を集約するため、25年度に大学院千駄ヶ谷キャンパスを閉鎖し、大学院機能を新宿キャンパスに集約した。これにより、26年度から賃借料など187百万円の削減効果を見込んでいる。

#### 【2026年度の主な投資計画等】

- 25年3月に多摩キャンパスの旧棟跡地整備工事が完了し、キャンパス拠点化に関連した積極投資は完了した。総投資額は283億円である。前年に引き続き26年度は、通常投資として、他キャンパスに比べて老朽化が目立つ町田キャンパスを重点的に整備する。具体的には、新トレーニングセンターの増設、桜グラウンドの人工芝取り換え、大志館や老実館のエレベーターリニューアル工事を予定している。
- 30年の中高新校舎竣工を目指し、自己資金を拡充するために「中高講堂等建設引当特定資産」に15億円を繰入れる予定である。
- コロナ禍は収束したものの、稼働率が伸び悩んでいる白馬シーズンスポーツキャンパスについて、26年度中に売却する方向で検討する。

## 2. 経常収支差額・経常収支差額比率の推移



- 賃金引上げ、物価高騰の大きな流れはあるが、学生生徒等の募集が好調なこと、引き続き人件費を含む経費の抑制に努めること、26年度に学費を改定することから、経常収支差額は25年度見込9.7億円、26年度予算12.7億円のプラスとしている。
- 今後も教育の質を維持・向上させるために必要な投資を行いつつ、業務の効率化・合理化等を進めて、中長期的な財政計画の中で、収支の均衡と経営体力の向上を図っていく。